

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム はなえみ(大地ユニット)	評価実施年月日	平成20年6月1日
評価実施構成員氏名	松浦 裕美子 ・ 東 里美 ・ 上田 祐子		
記録者氏名	東 里美	記録年月日	平成20年6月13日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人の理念をもとに、施設運営理念を作り上げている。</p>	○	左に同じ
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>会議等や職場内研修を通して理念を再確認し実践にむけて取り組んでいる。</p>	○	左に同じ
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用するにあたって、施設パンフレットにて確認し、理解を得ている。 ・運営推進会議等により、事業所の理解を得るようにしている。 ・定期的な通信で事業所の行事や地域での様子を家族や町内会の方をとおして行っている。 	○	左に同じ
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>外での活動時や散歩等での会話やあいさつを積極的に行っている。なじみの関係になった方には気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。</p>	○	左に同じ
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域で行っているイベント等に参加する機会をつくっている。町内の子供会で開催している朝のラジオ体操の参加。</p>	○	左に同じ
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>随時相談等に応じており、地域の高齢者の暮らしが最善となるように話し合っている。</p>	○	在宅高齢者や介護の相談等で気軽に立ち寄ったり、相談に来たりできる施設として取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議にて実施する意義を説明し、評価の結果についても会議にて報告し、現在の事業所の実情と改善にむけて取り組んでいる。	○	左に同じ
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度事業所の実情や取り組み事項を報告し、積極的に意見を聞いている。	○	左に同じ
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者に相談するような事例も現在は発生していないが、制度に関する質問や施設への協力のお願いは適宜している。	○	左に同じ
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実例がまだないので、現在のところは実施していない。	○	本年の学習会にて取り入れる。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理職や職員は虐待とならないよう言葉づかいも踏まえて細心の注意をはらっている。ケース会議を通して利用者の対応等で困っている事がないか、早期に気づき対応策をとっている。	○	左に同じ 高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をつくる。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・重要事項説明書にて、懇切丁寧な説明を心がけている。 ・家族からの疑問や不安等は具体例をあげるなどで、理解・納得を図っている。	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・苦情の窓口を設置し、随時、意見等を聞き取り、会議を行い検討している。 ・ご家族に連絡をとり、ご家族の意見を踏まえて運営に反映させるようにしている。	○	左に同じ
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	・健康状況に関して、変化があれば随時ご家族に連絡をしている。 ・日常生活は最低月に一度は様子を伝えており、遠方にある家族には、はがきや日頃の写真を送付する等を行っている。 ・金銭の管理は、個々の金銭出納帳に記載し、明確にしている。 ・職員の異動については、定期通信及び口頭にて報告を行っている。	○	左に同じ
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を設置し苦情や意向があった場合は速やかに検討委員会を開催している。またその他の公的機関の苦情の連絡先を紹介している。	○	左に同じ
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティング、月に一度の職員会議や随時意見や提案を聞き、反映させるようにしている。	○	左に同じ
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者一人ひとりの生活のリズムや希望に答えられるように、勤務の時間帯を調整するなどを行っている。	○	左に同じ
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が離職しないために、精神的負荷を踏まえ、個々の相談にのったり、スキルアップとなる研修の機会をつくったり、職員間の連携がうまくとれるように役割を決める等している。職員が代わる場合は、馴染みの職員の研修につけて、慣れてもらえるようにしている。	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	就任時研修の実施・年に1度または半年に1度のOJT、法人内の研修、役職者研修等を段階に応じて行っている。	○	左に同じ
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	居住している利用者、そのご家族、地域の方、職員で現状にあった取り組みをしている。在宅での生活の延長を目指しているため、在宅サービス事業者との情報交換の機会の確保を行っている。	○	左に同じ
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	困難な場面や喜びとなることを共有し、相談や助言しやすい体制づくりを心かけている。夏季・冬季休暇を付与することで、ストレスの軽減を図っている。親睦会をつくり、職員同士の交流の場をつくっている。	○	左に同じ
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	半年に1度OJTチェックを行い、面談を用いて勤務の姿勢や努力を自己や他者による評価を行っている。それにより、自己の気づきを養い反省や改善、成果を実感することにより、向上心を持って働けるようにしている。	○	左に同じ
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に応じ、利用者の思いを本人やご家族から聴く等、必要に応じて何度も話しを聴く機会をつくっている。	○	左に同じ
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に応じ、ご家族の思い聴く等、必要に応じて何度も話しを聴く機会をつくっている。また、相談窓口を設置しており、家族が話しやすい関係をつくっている。	○	左に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	適宜実施している。他のサービス機関とも連携をとり対応できるようにしている。	○	左に同じ
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	状況により、何度も見学に来てもらったり、生活の場に参加してもらう等、また職員が訪問する等を行う。馴染めるよう家族と相談しながらおこなっている。	○	左に同じ
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・日課を一緒に行う場面をつくり、学ばせてもらう姿勢で接しているため、介護されているという感覚ではなく、自分が居なくてはならないという感覚をもってもらうようにしている。 ・行事をとおして、利用者と職員が一体となってすすめていく過程で喜怒哀楽が共有となっている。 ・利用者と職員個別にコミュニケーションがとれる時間を確保し、個々の喜怒哀楽を共にするようにしている。	○	左に同じ
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・利用者の状況を適宜相談しながら、本人にとっての最善の生活をご家族の協力を得ながらおこなっており、本人と共に過ごし支えあう関係が築けている。	○	左に同じ
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時などに日常の様子をお伝えしながら、職員と家族と一緒に利用者を支えていけるように、家族との良好な関係づくりに努めている。	○	左に同じ
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や電話でのコミュニケーションの支援や時には今までと同様に遊びに来られる等できるようにしている。	○	左に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人ひとりの性格やその日の心情なども考慮しながら、利用者同士の関係が良好に保てるよう援助している。	○	左に同じ
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・はがきや電話等で家族や本人がいつでも相談や立ち寄ってもらえるようにしている。	○	左に同じ
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの話しを傾聴する事はもちろんのこと、希望や意向をうまく表現できない方の思いを汲み取ることができるよう、相手の立場に立って考えるように日々意識しています。	○	左に同じ
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴やこれまでの本人のとりにく環境を知るために、本人やご家族から情報を集め、職員がその情報を共有し、より良いケアにつなげられるように努めている。	○	左に同じ
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のミーティングを通して、一人ひとりの現状を把握し、現状にあったケアを行うよう努めている。	○	左に同じ
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と家族と十分に話し合い、ケース会議を行いより良い暮らしをすることができるように、意見交換し、それを介護計画に反映している。	○	左に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の現状に合わせたケアを行うために、日々本人や家族、職員から情報収集し、話し合いしながら見直し期間以前でも新たな計画を作成している。	○	左に同じ
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録には、介護計画に沿った記録を行うとともに変化や気づきを記録し見直しに活かしている。	○	左に同じ
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々に応じ、柔軟に対応している。	○	左に同じ
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・近隣の教育機関からの研修やボランティアの受け入れ ・施設近辺の保安への協力 ・教育機関の実習生の受け入れ ・民生委員の方の施設見学 ・防災訓練等 年2回	○	左に同じ
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人や家族の意向にて、情報の提供等を行い、円滑に他のサービス利用に移行できるよう支援している。	○	左に同じ
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、行っていくが、実態がなく、具体例がない状況である。	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	○	左に同じ
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医との連絡や相談を行い、適宜行っている。</p>	○	左に同じ
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>連携している医療機関の看護職員と相談を行い、支援している。</p>	○	左に同じ
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院先の病院関係者と連絡を取り合い、情報交換しながら、できるだけ早期退院できるように、また、安心して退院してこられるよう準備し、家族の不安を軽減できるように努めている。</p>	○	左に同じ
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>状況の変化に応じ、繰り返し話し合いを行いながら方針を共有している。</p>	○	
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所としてできること・できないことを見極め、家族やかかりつけ医とともに支援に取り組んでいる。今後の変化に備えて、検討や準備を行っている。</p>	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居先の関係者には十分に情報提供を行い、円滑に、不安なく住み替えができるように努めている。</p> <p>転居先に早く馴染めるように、協力を努めている。</p>	○	左に同じ
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の人格を尊重し、言葉使いや態度には十分気をつけている。利用者の居室に入室する際や利用者の持ち物を動かす場合には、必ず了承を得てから行っている。</p> <p>個人情報は他者には見えないよう取り扱っている。</p>	○	左に同じ
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が思いや希望を表せるように、信頼関係を築く努力をかかさず、自己決定をしながら生活できるよう支援している。</p>	○	左に同じ
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>何事においても利用者中心に考え、利用者の希望にできる限り応えられるよう、柔軟な対応を心がけている。</p>	○	左に同じ
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の整容・整髪には常に気を配っている。理容・美容は家族にも協力をして頂きながらできるだけ以前から通っていた店に行けるよう支援している。</p>	○	左に同じ
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一緒に献立を考えたり、買い物に行ったりしながら、一人ひとりの好き嫌いを把握し、栄養バランスに留意して食事を作っている。</p> <p>料理の下ごしらえは出来るだけ利用者と一緒に行うようにし、味付け等もアドバイスしてもらっている。食後の下膳は自らすすんで行ってくれている。</p>	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、たばこを吸う方やお酒を飲まれる方は入居されていないが、そのような訴えや希望があった時には、都度検討し、できる限り対応したいと考えている。おやつは基本的には皆さん同じメニューだが、好き嫌いには考慮し、代替を出せるよう用意している。	○	左に同じ
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った時間帯でトイレ誘導を行っているため、排泄の失敗を極力少なくすることができる。	○	左に同じ
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者が希望の時間に入浴できるよう調整している。ゆったりと気持ちよく入っていただくことを心掛けている。	○	左に同じ
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。安眠できるよう巡回時も物音や光等に気をつけている。	○	左に同じ
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や趣味を活かしながら役割をもち、レクリエーションを楽しみ、張りのある生活を送れるよう支援している。	○	左に同じ
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との同意を得て、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持と使用ができるよう支援している。	○	左に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員が付き添い、個人の買い物や留守にしている自宅を見に行くなどをしている。気晴らしや健康維持のため散歩にでたり、日光浴を行う等なるべく外に出る機会を増やすように努めている。	○	左に同じ
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個人の要望があれば、応えられるよう調整を行い、家族の協力を得ながら外出の機会を増やしていくようにしている。また、特定の希望がなくても、楽しめるイベント等がないか日頃から情報収集に努めている。	○	左に同じ
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙やはがきを書く機会をつくり送るなど、柔軟にやり取りができるように支援している。	○	左に同じ
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご本人の部屋で過ごしていただいている。	○	左に同じ
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所の規則でも具体例をあげ禁止をしている。	○	左に同じ
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外部からの侵入等の危険を考えて、現在は取り組んでいない。	○	日中等安全の確保ができれば、実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>さりげなく居室に訪問し対話をするなど、所在や様子を確保している。 夜間は定期的な巡回を行い、状況に応じて見守りが頻回になることもある。</p>	○	左に同じ
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者のストレスとならないように、保管、管理している。</p>	○	左に同じ
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>・ヒヤリハットをもちいて自己防止に取り組んでいる。 ・具体例をあげて、職員の知識の共有をはかっている。</p>	○	左に同じ
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>利用者の状況に応じて、起こり得る事故を想定し、対応を周知している。</p>	○	左に同じ
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練の際、消防に来てもらい、緊急時に体が不自由な方々を避難させる方法を学んだ。 事業所だけでなく、町内の方や家族、法人での緊急連絡網により、協力体制の確保をしている。</p>	○	左に同じ
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族と一緒にリスクを踏まえた利用者にとって最善の暮らしを常に話しあっている。</p>	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>・毎日バイタル測定を行い、普段の違う様子があれば、他の職員に申し送り、継続的な観察とバイタル測定を行う。</p> <p>・異常がみられた場合には、医師に連絡をとり指示を仰ぎ、職員全員が対応できるようにしている。</p> <p>・家族には随時連絡をとっている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>・服薬している薬について、目的や副作用、用法等について処方箋の他に勉強する機会をつくり理解を図っている。</p> <p>・薬の変更のあったときは、様子を観察して、変化があれば家族又は主治医への連絡をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維を含む食物、水分、乳製品の摂取を行っている。</p> <p>毎朝のラジオ体操や個別の機能にあわせ生活の中で体を動かす機会をつくっている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行っている。介助が必要な方でも出来る事は自分でやってもらえるよう声をかけている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分摂取量のチェックを行い、体重減少脱水にならないよう気を配っている。</p> <p>食事の時間も一人ひとりの生活リズムや習慣に合わせている。好き嫌いも考慮しながら食事を美味しく楽しくできるように工夫している。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>	<p>感染症予防対策マニュアルにて職員へ周知、実行している。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルにて職員へ周知徹底している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	敷地内を開放的にしており、カーポート下でくつろげるような空間を確保している。	○	左に同じ
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を飾ったり、洗濯物を干したり、共に生活をしている空間づくりをしている。	○	左に同じ
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自分の安心して過ごせる居場所が自然にできている。	○	左に同じ
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の使い慣れたものをもってきてもらっている。	○	左に同じ
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室自動換気システムを導入し、常時換気を行っている。 温度や湿度調整は、オール電化のためこまめな換気や加湿を行い調整している。	○	左に同じ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>テーブルやソファ等の家具の配置にも気をつけ、安全に暮らすことができるよう工夫している。</p> <p>手すりの設置によりつかまりながらの歩行の方も行きたい場所へ安全に行けるようにしている</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自分の部屋をわかりやすくするために工夫をしたり、食卓やソファなど、自分の居場所で安心して過ごすことができるように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭を利用し、プランターでの家庭菜園や表玄関前での花壇の前でテラスを利用してお茶の時間をつくったり、昼食をる等の活用。</p> <p>毎朝日課で花の水やりや庭掃除も利用者と一緒にしている。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホームでの生活は家庭で起こるように様々な場面があります。ゆったりとした、家庭的な雰囲気をつくり、ご家族にも参加していただきながら、喜怒哀楽が表現でき、関わるみなさんと一緒に考えながら、生活していく温かい施設づくりをしています。

誕生日には、年を重ねていく事を喜びと感じてもらえるように、本人の欲しいもの、行きたいこと、してみたい事などが叶えられるように、ご家族と相談しながら企画をしています。

職員と利用者、利用者と家族と一緒に歌を歌ったり、劇や踊り等を披露する年に一度、敬老会をホテルで開催しており、ご家族やお孫さんや知人を含め毎年60名以上参加されています。